

重要課題4 持続可能な循環型社会形成

循環型社会形成に向けた3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進

当社企業グループは、循環型社会の形成に向け、廃棄物関連法規制に基づく廃棄物の適正な管理・処理を行うとともに、3Rの推進に取り組んでいます。

廃棄物の適正管理・処理

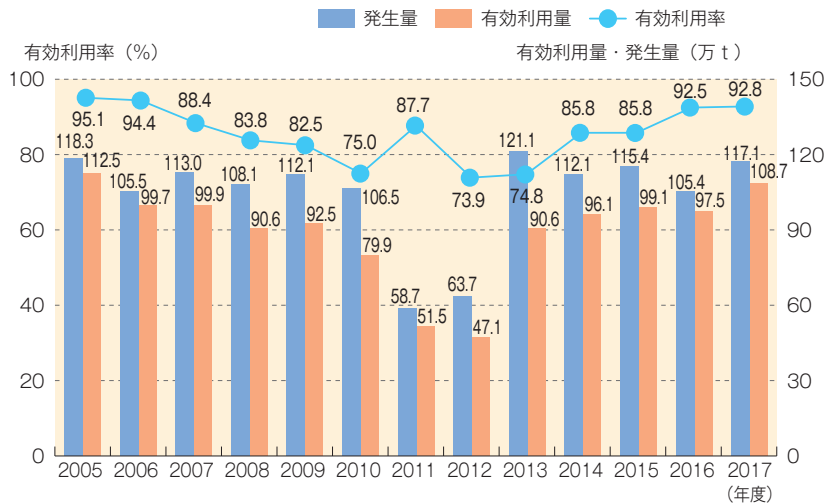
当社の主な廃棄物は石炭火力発電所から発生する石炭灰や石こうで、全体の9割以上を占めており、そのうち8~9割程度を有効利用しております。このほか、全量有効利用しているがれき類をはじめ、ほぼ全量有効利用している金属くずなどもあります。

これらの廃棄物は、廃棄物管理システムや電子マニフェストの導

入により適正に処理するとともに「廃棄物3R 施策検討会」を定期的に開催し、一層の3Rの推進に努めています。

その結果、震災前後で一時的に下がっていた有効利用率は約9割程度に改善しています。2017年度は、有効利用率90%の目標に対し、実績は92.8%と目標を上回りました。

◆ 廃棄物の発生量と有効利用の実績



有効利用率
92.8%

火力発電所から排出される石炭灰・石こうの有効利用

当社の石炭火力発電所から発生した石炭灰の有効利用の取り組みとして、能代火力発電所3号機建設工事や社外における土木工事などで使用するコンクリートに、JIS規格に適合した石炭灰(フライアッシュ)を混ぜています。また、排煙脱硫装置で副生される石こうは、石こうボードなどへ有効利用されています。

なお、亜瀝青炭などの低灰分炭の活用拡大により、燃料資源の有効活用に加えて石炭灰の発生量低減についても、検討を進めています。



石炭灰(フライアッシュ) JIS規格品



能代火力発電所3号機基礎工事でのコンクリート大量打設の状況

TOPICS

福島エコクリート株式会社への石炭灰供給を通じた福島復興への貢献

原町火力発電所では、2018年3月より、福島エコクリート株式会社へ石炭灰を供給しています。福島エコクリート株式会社は、福島県の復興計画として進められている「福島イノベーション・コースト」構想のなかの石炭灰混合材料製造事業として設立されており、当社は、石炭灰の供給を通じて、福島復興に貢献してまいります。



原町火力発電所からの搬出状況

グループ企業と連携した3Rの推進

当社は、当社グループ企業と協力して、使用済み資機材の3Rに取り組んでいます。

Reduce (リデュース)

保守・点検をきめ細かに行うことによる電力設備の長寿命化に取り組んでいます。

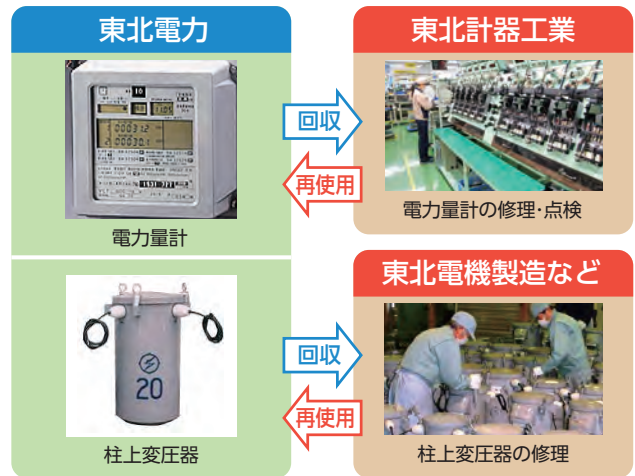
Reuse (リユース)

回収した電力量計や柱上変圧器はグループ企業などにおいて修理し再使用しています。開閉器なども再使用を図り、資源の有効利用に努めています。

Recycle (リサイクル)

配電工事などで撤去された電線の銅くずは配電用電線に再生しています。PVC（ポリ塩化ビニル）被覆の一部は、電線の被覆材や樹脂などとして再生しています。

また、約40年使用した電柱は破碎後、「再生骨材」と「鉄筋くず」として、それぞれ100%リサイクルし、公共事業等に活用されています。



リユースの取り組み



リサイクルの取り組み

発電機のタービンで使用した潤滑油の再利用

発電機のタービンで使用した潤滑油は、一定期間使用後、交換の際に再利用可能なものを発電用の燃料として再利用することで、資源の有効活用に努めています。

電子マニフェストによる廃棄物管理の強化

当社は、全社に廃棄物管理システムを導入し廃棄物管理の強化を図ってきました。さらに電子マニフェストについて当社事業所をはじめ企業グループの事業所への導入拡大を行い、管理業務の効率化を図りつつ法令遵守を強化しています。

グリーン調達の推進

環境配慮型商品の利用による環境影響の低減、市場のグリーン化への協力などを目的とし、「東北電力グリーン調達ガイドライン」を定め、グリーン調達の推進に取り組んでいます。2017年度の対象什器・資機材のグリーン調達率は、99.4%でした。

オフィスにおける積極的な3R

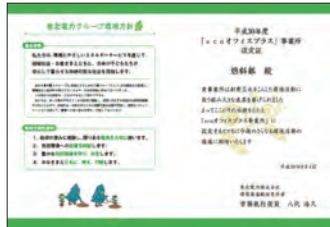
eco オフィス活動

Reuse

当社は、eco オフィス活動を実施しており、印刷時における両面・集約印刷や用紙裏面利用、ペーパーレス会議の推進、社内文書の電子化での共有、使用実績の管理により、紙使用量の削減等、省資源活動に取り組んでいます。

当社のeco オフィス認定・登録制度とは

事業所における省エネルギー・省資源活動（紙・ゴミ・電気・水・車両燃料の削減）、地域協調活動の一環として取り組み活動（清掃、植樹、講演会等）を募集し、審査の上、積極的に取り組んでいる事業所を「eco オフィスプラス」事業所として認定する制度です。また、各事業所の取り組みを社誌等で紹介し、社内に水平展開を図っています。



「eco オフィスプラス」事業所認定ステッカー（左）と、認定証（右）

余ったカレンダー等の有効活用

Reuse



札幌ユネスコ協会へ送付するカレンダー

当社本店では、年末に余ったカレンダー・手帳等を有効活用するため、カレンダーリサイクル市（主催：札幌ユネスコ協会）へ提供しています。そこで販売されたカレンダー等の収益金は、日本ユネスコ協会連盟の「東日本大震災子供支援」活動などに使われています。

当社本店ビルにおける リサイクル運動

Recycle

当社本店では、2011年から割り箸のリサイクル運動を実施しています。使用した割り箸は、仙台市の回収ステーションへ搬入し、その後、製紙工場でパルプ（紙の原料）へリサイクルされ、新しい紙に生まれ変わります。

リサイクルする割り箸は、1ヵ月で5~10kgで、これまでの7年間で約550kg（A4用紙に換算すると約37,000枚分に相当）となりました。



リサイクルする割り箸（約1ヵ月分）

7年間で、割りばし

約**550kg**
をリサイクル

また、プリンターのインクなどの使用済みのカートリッジについても、メーカーへ送付し、リサイクルを行っています。



リサイクルするインクカートリッジ

不要となった被服の有効活用

当社は、不要となった作業服等の被服についてリサイクルを行っています。

作業服・雨合羽・防寒服は破碎後、古紙や繊維くず・木くずと混合・圧縮固化し、石炭やコークス等の代替燃料として製紙会社や産廃事業者のボイラーなどで利用されています。

